

落石、巻き込まれによる事故が発生

①トンネル支保工の建て込み作業中に頭上から岩片が落ち作業員が負傷した事故

②振動ローラで締固め作業中に作業員を巻き込み負傷させた事故

以上の2件の事故について事例を紹介します。

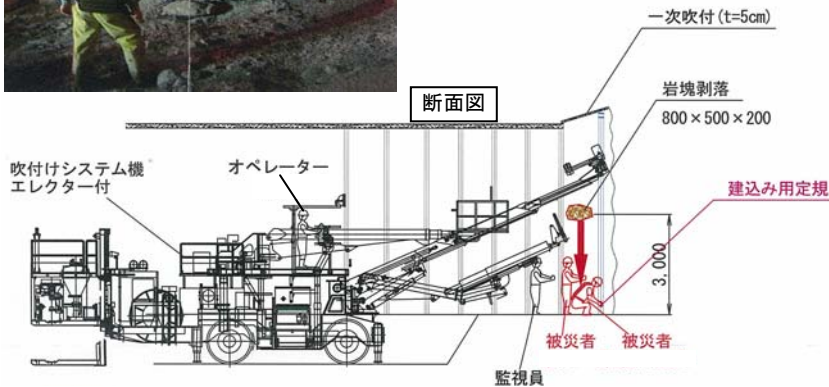
年末年始については一層の安全管理を行い、事故が発生しないように心がけてください。

トンネル切羽で作業中に岩片が剥落し被災

現場状況写真



肌落ちした岩片
長さ 80cm
幅 50cm
厚さ 20cm



<事故概要>

- ・トンネル発破掘削作業において、コソク及びモルタル一次吹付作業後、支保工の建て込み中、作業員が精度確認の測量作業を行っていた。
- ・支保工の位置決めが完了し、移動しようとした際、上部より岩片が剥落し、作業員の背中に当たり、その反動で別の作業員の右腕に当たった。

<事故原因>

- ・浮石除去が徹底されていないことが原因ではないかと考えられる。

<事故防止対策案>

- ・コソク作業を徹底する。
- ・切羽面・天端面を常に監視し、異状時は速やかに退避出来るようにする。

作業員が振動ローラに巻き込まれ負傷

<事故概要>

- ・振動ローラ（4 t）で締固め作業を行っていたところ、後方でセメント空袋処理をしていた作業員を巻き込み、左足を負傷させた。
- ・作業員は左足つけねの骨折（全治1ヶ月の診断）。

<事故原因>

- ・振動ローラ運転手の後方確認が不十分であった。
- ・振動ローラの作業エリア内に立入禁止等の明示が不十分であった。

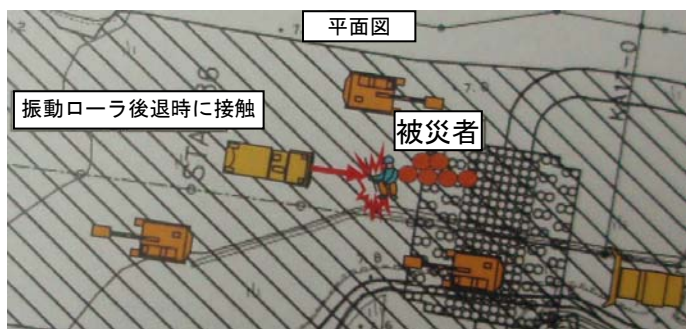
<事故防止対策案>

- ・重機運転の際は必ず目視による安全確認を行う。
- ・振動ローラの作業エリアをカラーコーン等で明示し立ち入らない様にする。

現場状況図



平面図



近畿管内の秋期安全協議会に延べ1755名参加

●秋期（10月～12月期間）の工事安全協議会が、近畿管内17会場で開催されました。所管警察及び労働基準監督署、本局より講師を招き、現場代理人・監理技術者・監督職員等延べ1755名の参加の下、工事の安全対策に関する情報の共有と安全に対する意識の向上が図られました。

和歌山河川国道事務所



京都国道事務所



福知山河川国道事務所



福井河川国道事務所



紀の川ダム統合管理事務所
大和川河川事務所



兵庫国道事務所
国営明石海峡公園事務所



年末年始を迎えるにあたって



- ・これから年度末にかけては、作業が輻輳する等の理由により工事事故の発生が増加する傾向にあります。
- ・建設現場は天候の影響を強く受けるため、作業能力・思考能力が低下し、事故が発生する確率が高くなっています。
- ・今一度、現場及び周辺的安全確認を行い、作業員に対して安全管理の周知徹底を行うようにしてください。
- ・休日中の建設資材の盗難が頻発しているため、注意してください。

“うっかり、ぼんやり”



危険



以下のことを心がけてください！

- ・工事区域内への第三者（特に子供）進入防止のため、バリケード・看板等の安全設備の充実を図り、立入禁止区域を明確にさせる。
- ・現場内資材の整理整頓・飛散防止・可燃物の片付け・出入り口の施錠等を確実に実施する。



来年の干支 寅

年末年始も「あんぜん」に。よいお年をお迎えください